

巻頭言

「まじめ、元気、みんなで創る下市」

下市町長

奈良県国民健康保険団体連合会理事

枚本龍昭



下市町は、北に吉野川とその支流である秋野川、丹生川が流れ森林に包まれた自然豊かな地形に位置し、中世以降に日本最初の商業手形が発行されるなど、商業の中心地として発展してきた町です。一方、吉野杉を生かした伝統産業である割箸、三宝等の地場産業は、高齢化により衰退傾向にあり、後継者の育成が大きな課題であります。

さて、当町の保健事業は町保健センターを拠点に、生活習慣病の発症予防及び重症化予防を重点対策として健（検）診や予防、健康相談、啓発等の活動を行っております。その活動は、健康増進計画「おたっしや下市21」に基づいて計画的に進められているところです。この事業活動を支えているのは、当町に勤務する保健師と保健活動をボランティアとして支えてくれている健康づくり推進員の方々であります。約15名で構成される下市町健康づくり推進委員会の活動は、がん検診や地域サロンへの協力の他、当町近郊を手軽に歩ける「ウォーキングマップ」を製作する活動しております。

また、国保事業計画としては、「データヘルス計画」「特定健診計画」を今年度策定し

、計画的な保健事業が実施できるよう取り組んでいるところです。平均寿命が延び高齢化社会を迎えている中、本町は県下でも男女ともに健康寿命が低く、このことから健康寿命を延ばすための取り組みが一層重要であると感じており、「まじめ、元気、みんなで創る下市」を合言葉に職員・町民一丸となり健康づくり、町づくりを進めてまいります。

最後になりましたが、平成30年度は、国民健康保険制度の大きな転換期となる奈良県単位の元年であります。29年度は非常にタイトなスケジュールの中、県と市町村の合意形成が図られ「奈良県国民健康保険運営方針」が策定され、その中で、「同じ所得・世帯構成であれば、県内のどこに住んでも保険料水準が同じ」となる保険料（税）水準の統一化38年度完成を目指すがあります。この方針に基づき国保制度の安定化・標準化を目指し適正に進められることを望むところです。

